

事務事業名	交付金活用橋梁修繕事業	所属部	建設部	所属課	業務管理課	
総合計画体系的	政策名	(Ⅱ)安全・安心で快適なまち<<定住環境>>	所属G	維持管理G	課長名	小川 浩平
	施策名	(12)生活道路の整備	担当者名	佐藤 保興	電話番号	0854-40-1061
	目的	対 A)市民(道路利用者) B)生活意 市内を安全に移動できる。	予算科目	会計 014001 大 大 橋梁維持補修事業	(内線)	3732
	目的	対 道路利用者 意 安全に移動できるように道路を維持管理し、情報を発信する。	項目	102003 中 中 交付金活用橋梁修繕事業		

1 現状把握[DO]

(1)事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (26年度~)
② 事業内容	(期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・遠方目視による橋梁点検結果及び法改正に基づく近接目視の近接目視による橋梁点検結果に基づき、橋梁長寿命化計画を策定し、計画的な修繕を行う。

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	26年度実績(26年度に行った主な活動) ・長寿命化計画策定のための概略調査設計業務委託 ・橋梁点検結果に基づく設計業務委託	27年度計画(27年度に計画する主な活動) ・長寿命化計画策定のための概略調査設計業務委託 ・橋梁点検結果に基づく設計業務委託 ・長寿命化計画に基づく修繕等			
	② 活動指標	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
	ア 橋梁修繕	橋				2
	イ 調査設計済橋梁	橋				4
	ウ 修繕計画橋梁数	橋			400	600
	エ					

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	ア 人口【国勢調査(推計)】	人			39,472	39,458
		イ 雲南市市道延長	km			1,158	1,159
		ウ 雲南市道橋梁数	橋			1,036	1,036
		④ 成果指標	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
① 市内を安全で迅速に移動できるようにする。 ② 修繕(補修)等を実施する。	ア 生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%			58.0	56.0	
	イ 生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合	%			70.8	72.0	
	ウ 長寿命化、耐震化を行った橋梁数	橋			0	2	

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳(26年度決算)	② コストの推移	単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)	
・橋梁概略調査設計業務委託 9,428千円 ・元学校前橋設計業務委託 3,456千円 ・橋梁補修調査設計業務委託 ※繰越額 7,116千円	財源内訳	国庫支出金	千円			8,375	32,500
		県支出金	千円				
		地方債	千円				7,000
		その他	千円				
		一般財源	千円			4,509	10,900
		事業費計(A)	千円			12,884	50,400
	人件費	正規職員従事人数	人			6	
		延べ業務時間	時間			120	
		人件費計(B)	千円			467	
		トータルコスト(A)+(B)	千円			13,351	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・道路法等一部改正により2m以上の橋梁について5年に1回の点検が必要であり、その結果に基づき修繕が必要となる。	・計画的な修繕により橋梁の長寿命化を行うことができる。 ・点検結果に伴う優先順位により、効率的な修繕ができる。	・市民より橋梁の点検や修繕の要望がある。

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である * 余地がある場合⇒	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？ 理由 ・点検結果に基づき修繕計画を策定し、予防的な修繕等により将来的な経費削減を行うものであり成果は最大である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
C 効率性	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由 ・市道橋梁の安全性が保たれなくなる。 ・道路法の一部改正により、2m以上橋梁を今後は5年に1回点検し、点検結果に基づく修繕が必要となる。
	<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
D 公平性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)	理由 ・市道橋梁独自の事業であり類似事業がない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる		
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない		
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由 ・点検結果に基づき修繕計画を策定し、予防的な修繕等により将来的な経費削減を行うものであり削減の余地はない。
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 ・道路管理者が行う修繕工事発注であり、これ以上の人件費削減余地はない。	
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由 ・利用者が市内を安全で迅速に移動できるようにするものであり、公平・公正である。
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	

評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	・点検結果に基づき修繕計画を策定する。予防的な修繕等により将来的な経費削減を行うものであり成果は最大である。 ・2m以上の市道橋梁の安全性を保つため、5年に1回の点検結果に基づき修繕が必要である。
	B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり		

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																						
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				
<p>・道路法の一部改正により、今後は2m以上の橋梁については5年に1回の点検が必要である。なお、点検基準及び要領については平成26年7月に示された。</p> <p>・橋梁修繕計画とともに橋梁点検計画も策定する必要がある。</p> <p>・事後保全から予防保全にシフトすることにより、将来的なトータルコストを削減できる</p>		<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																						